

2017年8月9日 全8頁

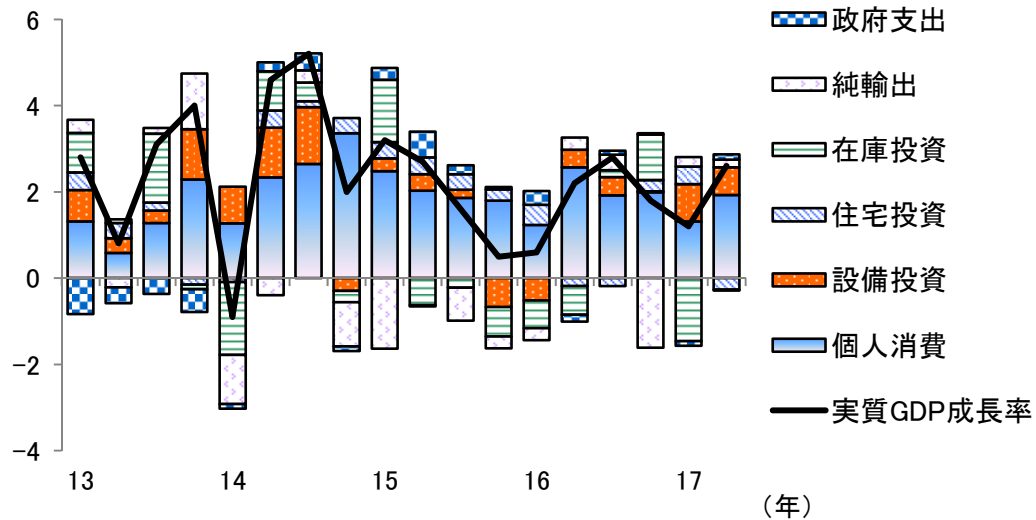
アメリカ経済グラフポケット (2017年8月号)

2017年8月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



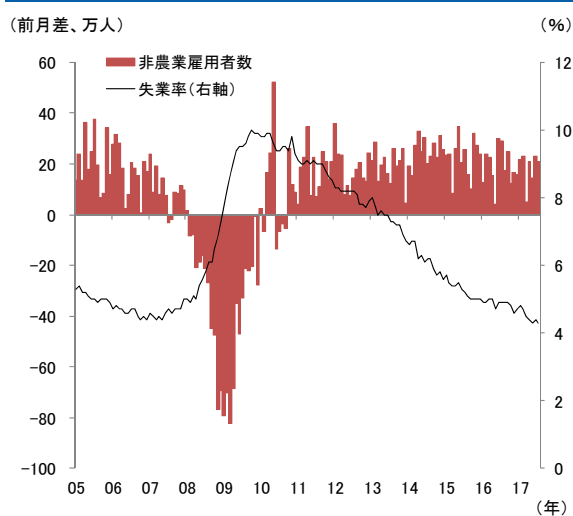
(前期比年率、%、%pt)	2015		2016				2017	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	1.6	0.5	0.6	2.2	2.8	1.8	1.2	2.6
個人消費	2.8	2.8	2.9	1.9	2.8	2.9	1.9	2.8
設備投資	1.5	3.4	0.2	7.2	3.4	0.2	7.2	5.2
住宅投資	10.6	-4.5	7.1	11.1	-4.5	7.1	11.1	-6.8
政府支出	1.2	0.5	0.2	-0.6	0.5	0.2	-0.6	0.7
輸出	-4.0	6.4	-3.8	7.3	6.4	-3.8	7.3	4.1
輸入	1.7	2.7	8.1	4.3	2.7	8.1	4.3	2.1
寄与度								
個人消費	1.9	1.8	1.2	2.6	1.9	2.0	1.3	1.9
設備投資	0.2	-0.7	-0.5	0.4	0.4	0.0	0.9	0.6
住宅投資	0.4	0.3	0.5	-0.2	-0.2	0.3	0.4	-0.3
在庫投資	-0.2	-0.7	-0.6	-0.7	0.2	1.1	-1.5	0.0
政府支出	0.2	0.1	0.3	-0.2	0.1	0.0	-0.1	0.1
輸出	-0.5	-0.3	-0.3	0.3	0.7	-0.5	0.9	0.5
輸入	-0.3	0.0	0.0	-0.0	-0.4	-1.1	-0.6	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

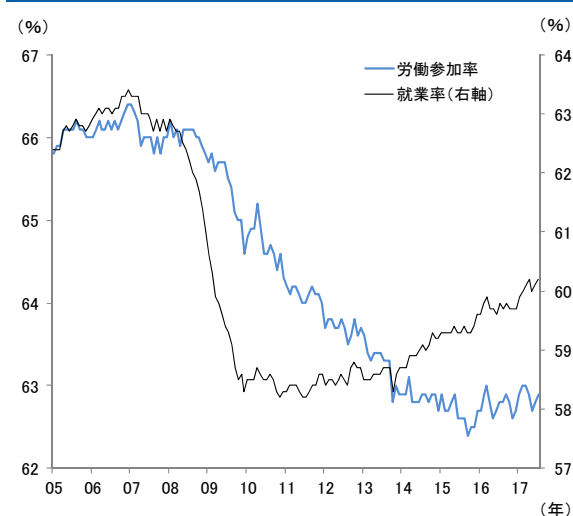
- ◆ 7月の失業率は4.3%であった。前月から0.1%ポイント低下し、2001年5月以来16年ぶりの低水準を記録した5月と並んだ。
- ◆ 7月の非農業雇用者数の前月差は20.9万人増となった。前月の増加幅からは縮小したものの、好調の目安とされる20万人を2ヵ月連続で上回った。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.9万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



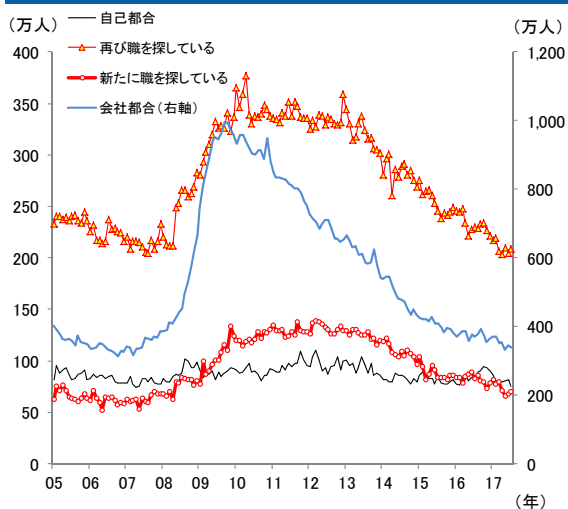
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



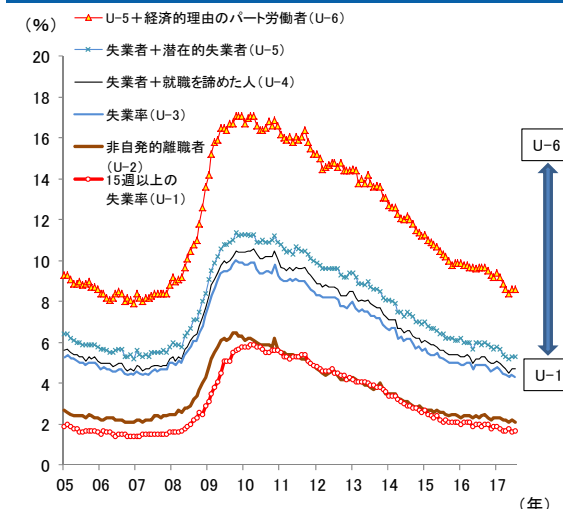
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



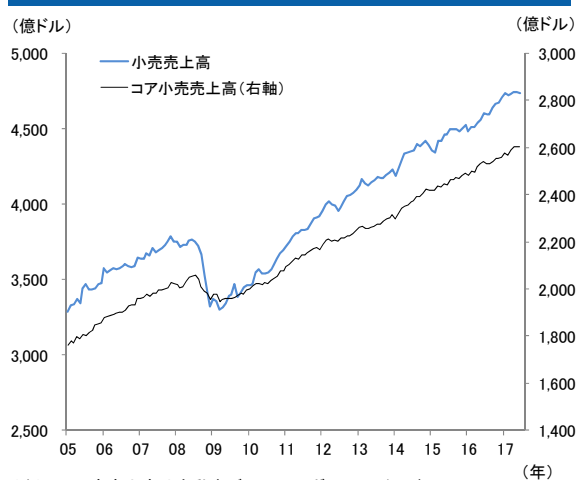
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「雇用者数は+20.9万人と好調維持」(2017年8月7日)参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20170807_012198.html

個人消費

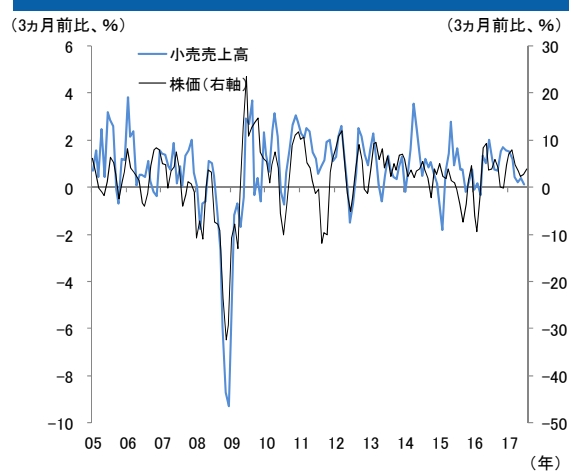
- ◆ 6月の小売売上高は前月比0.2%減少し、2ヵ月連続で減少した。コア小売売上高も同0.1%減少した。
- ◆ 7月の自動車販売台数は前月比0.4%増加し、年率換算で1,677万台であった。3ヵ月連続で1,700万台を下回り、このところ軟調に推移している。
- ◆ 7月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の95.1から93.4へと低下した。内訳の期待指数の低下が全体を押し下げ、2ヵ月連続の低下となった。

小売売上高の推移



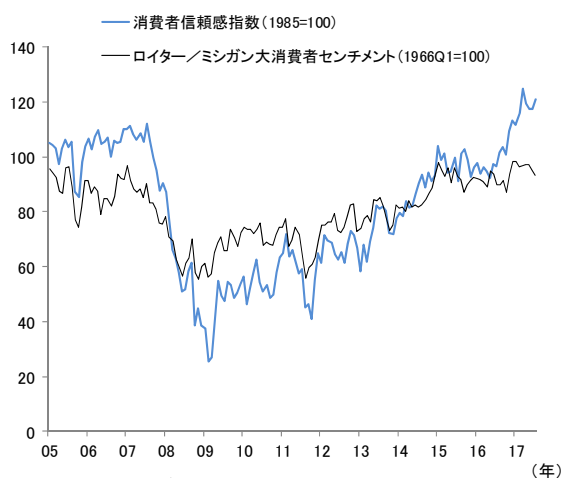
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



(注)株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

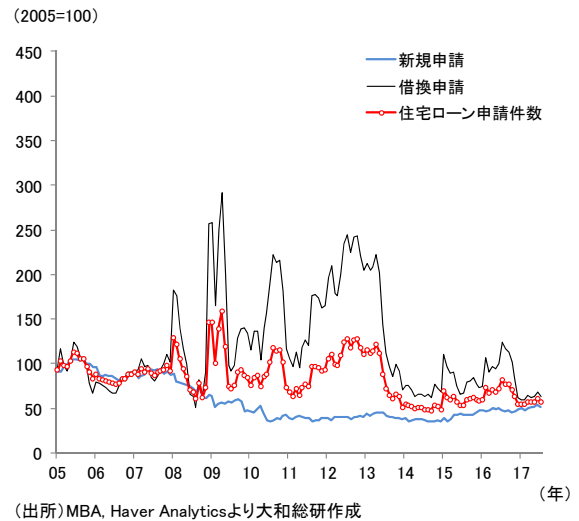
住宅市場

- ◆ 6月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比8.3%増の年率換算121.5万戸であった。一戸建てと集合住宅の双方が増加し、4ヵ月ぶりの増加となった。
- ◆ 6月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比2.0%減の年率換算488.0万戸であった。高水準を維持しているものの、住宅価格の上昇が影響し、前月より減少に転じた。
- ◆ 6月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比0.8%増の年率換算61.0万戸となった。西部における販売の大幅な増加が全体を押し上げ、2ヵ月連続で増加した。
- ◆ 5月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から0.1%上昇した。住宅価格は低水準の在庫を反映し、上昇傾向にある。

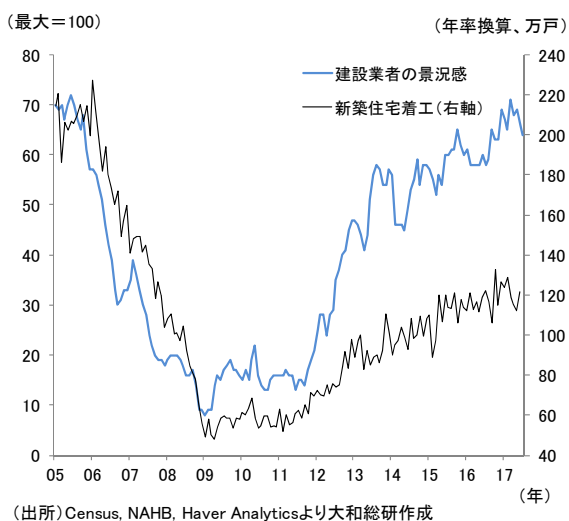
住宅販売（一戸建て）



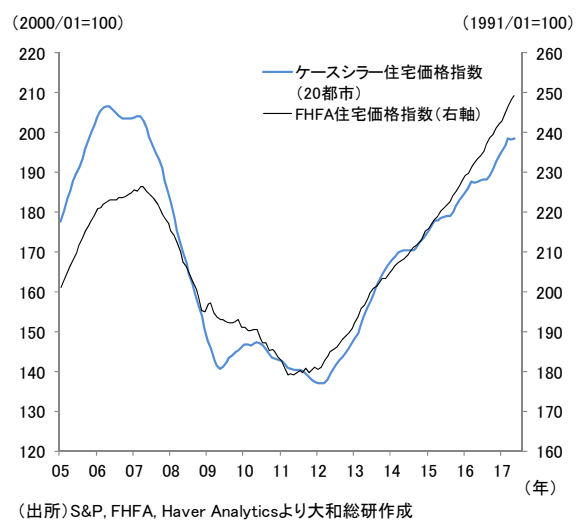
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



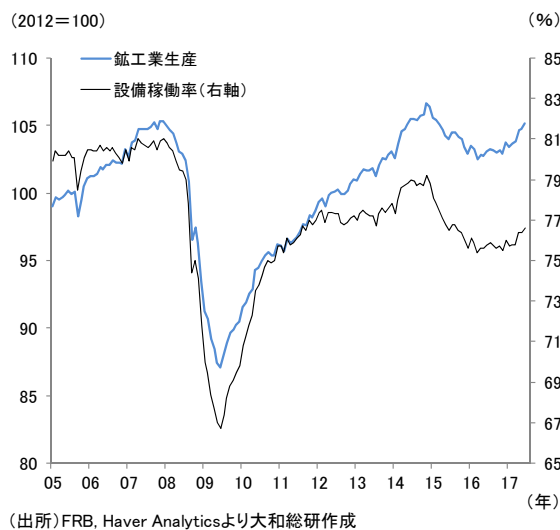
住宅価格



企業動向

- ◆ 6月の鉱工業生産指数は、前月比0.4%上昇した。前月が上方修正されたことから、5ヵ月連続の上昇となった。全体の約75%を占める製造業（SICベース）は同0.2%上昇した。
- ◆ 6月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月とほぼ同水準であった。
- ◆ 7月のISM製造業指数は、前月から1.5%ポイント低下の56.3%であった。2014年8月以来の高水準となった前月から低下に転じた。非製造業指数は前月から3.5%ポイント低下し、53.9%となった。2016年8月以来の低水準となったが、景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回っている。

鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



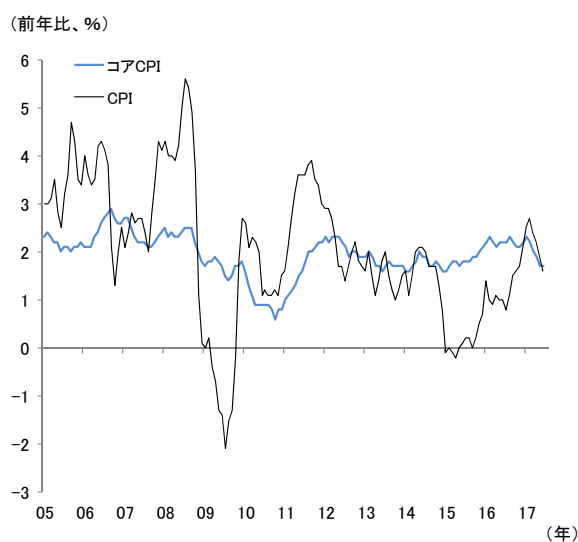
耐久財受注



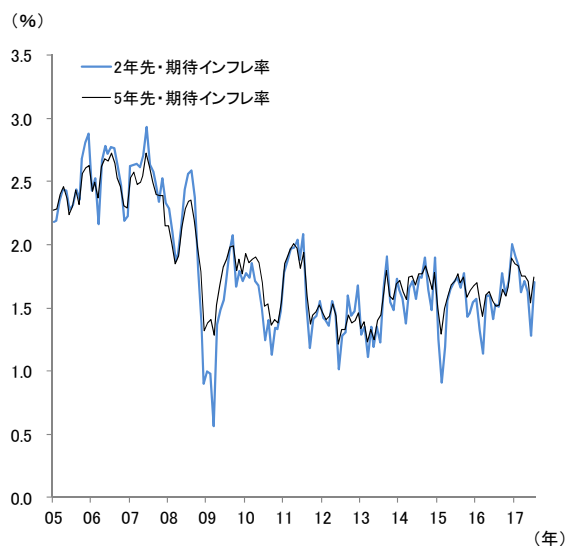
物価動向

- ◆ 6月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.6%上昇した。コアCPIは同1.7%上昇し、前月と同じ上昇幅となった。
- ◆ 7月の2年先期待インフレ率は1.70%で、5年先期待インフレ率は1.74%であった。ともにこのところの低下傾向から上昇に転じた。
- ◆ 7月末のWTI原油先物価格は50.17ドル/バレルで、6月末の46.04ドル/バレルから上昇した。米国の在庫減少や、OPEC加盟国等の積極的な減産合意などが価格を押し上げ、2017年3月以来初めて月末値が50ドルを上回った。

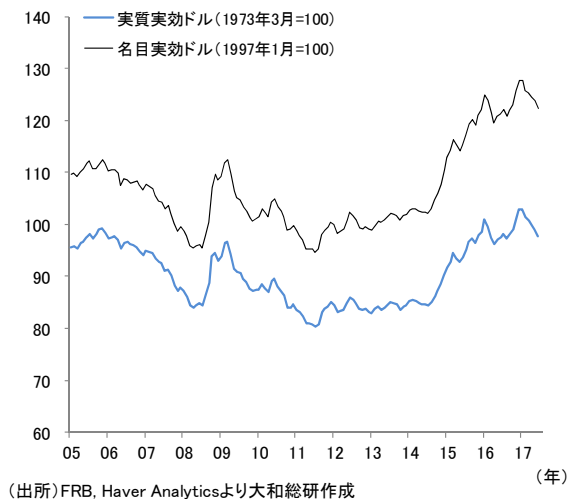
消費者物価指数



期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



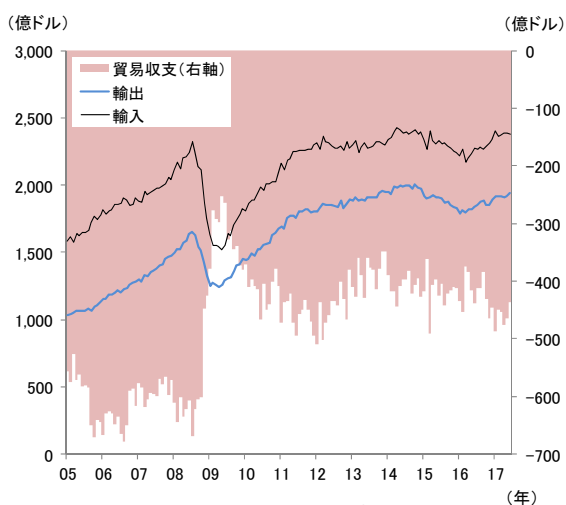
コモディティ価格



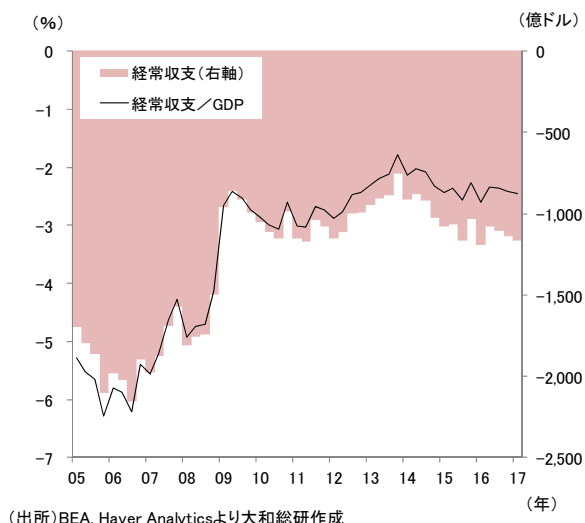
輸出入・経常収支

- ◆ 6月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.2%増加し、輸入が同0.2%減少した。この結果、貿易赤字は同5.9%減少の約436億ドルとなった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では資本財と食品・飼料・飲料が主に増加した。一方の輸入では、原油、および携帯電話・その他日用品を含む消費財の減少が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比9.9%増、日本向けが同8.4%増、欧州向けも同0.8%増加した。輸入は、中国からの輸入が同9.7%増加し、日本からの輸入も同1.2%増加したが、欧州からの輸入は同1.3%減少した。

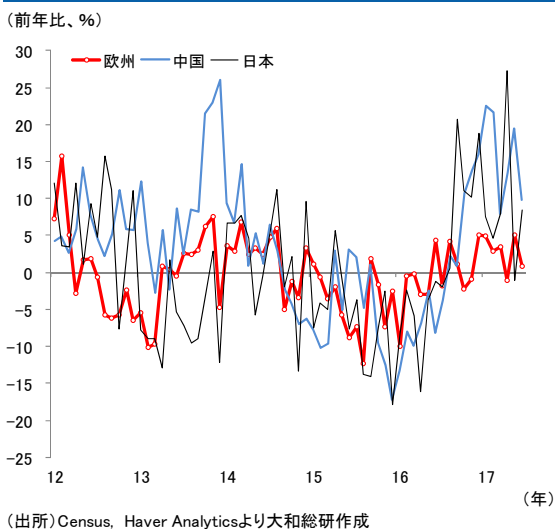
貿易収支動向



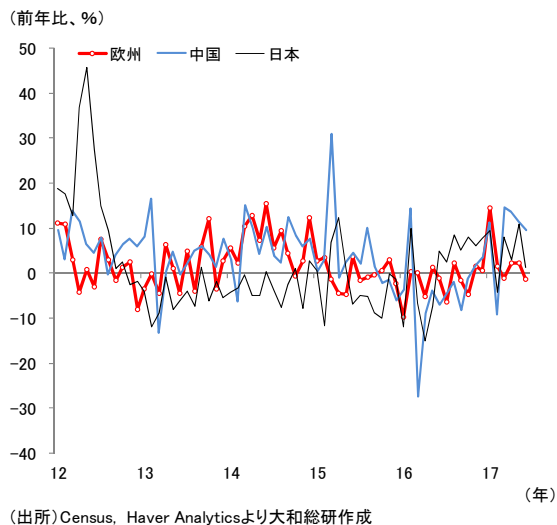
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



国・地域別輸入動向



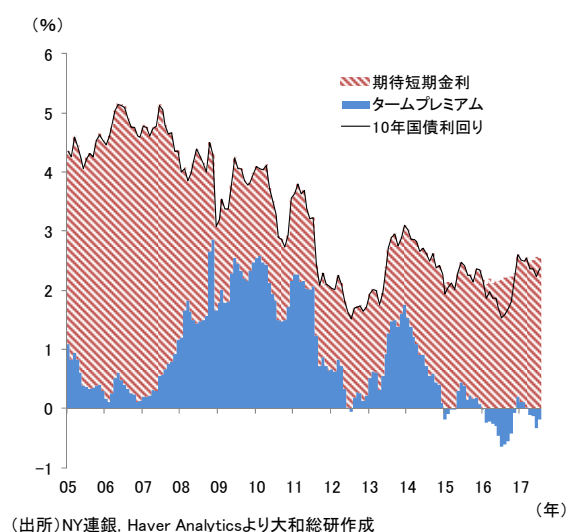
金融・財政

- ◆ 2017年7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが据え置かれ、1.00-1.25%とすることが決定された²。FRBが保有する資産規模については現在の水準を維持することが決定されたが、「比較的早期に」縮小を開始するとされた。FRBの資産残高は、直近の8月2日の週平均が約4兆5,100億ドルであった。
- ◆ 7月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.32%であった。6月末から7月前半にかけて上昇し、月中平均値は2017年3月以来の高水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、赤字幅が徐々に拡大しつつある。

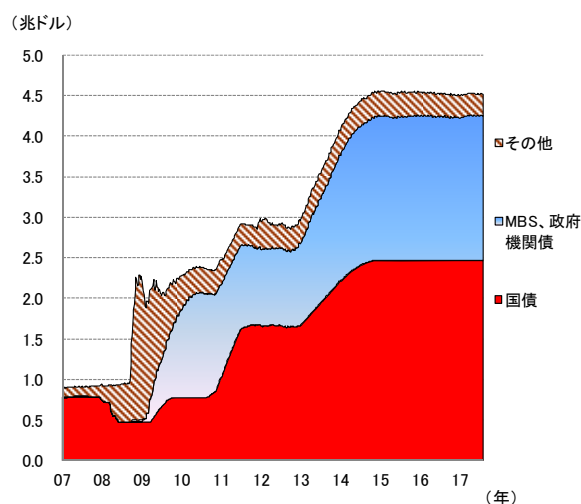
政策金利・長期金利



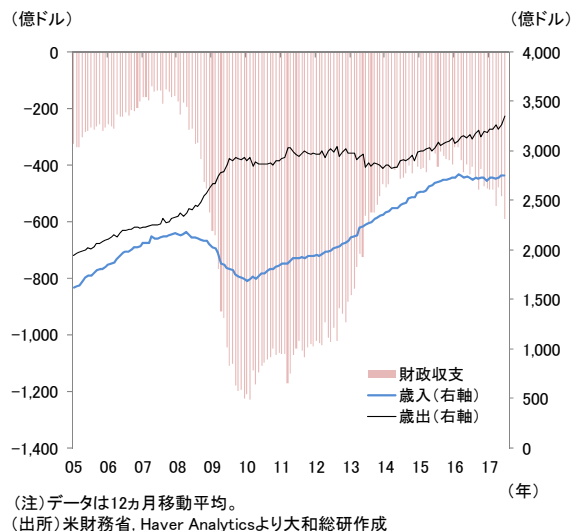
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「FOMC バランスシート縮小は『比較的早期に』」（2017年7月27日）参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20170727_012175.html